



なるほど！

確定拠出年金

PLUS

2026/06

Vol.01

1. 商品を学ぼう 債券と株式

共通

★ポイント★

債券と株式では、安全性とリスク・リターン特性に差があります！

確定拠出年金における運用商品は、大きく二つに分かれます。

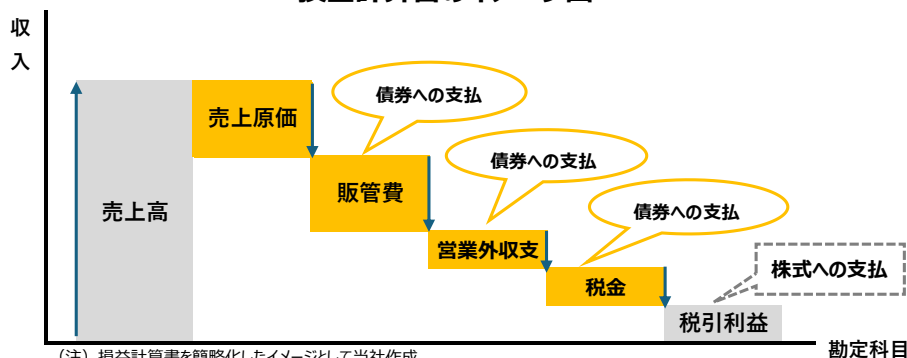
専門家が様々な資産に投資を行う「投資信託商品」と、元本が保証されている「元本確保型商品」です。今回は投資信託商品の中でも種類が多く、運用の中心になる資産「債券」と「株式」について説明します。

債券を購入することは、国や企業などに対して、期限や利率などの条件を決めて、お金を貸すことです。

株式を購入することは、事業を行う企業に対して、期限などの条件を決めずに、お金を投資することです。

そして、お金を「貸す」と「投資する」ことでは、**安全性とリスク・リターン特性**において大きな差があります。そのことを、下の図を使って説明します。

損益計算書のイメージ図



(注) 損益計算書を簡略化したイメージとして当社作成。

債券へ支払うお金は、国債は販管費と税金から、社債は営業外収支から確保される。

図は企業の損益計算書を簡略化したイメージです。縦軸に収入、横軸に勘定科目をとり、売上高から税引利益に至る経路を示します。吹き出しは、債券と株式に支払われるお金の計上タイミングを示します。

これから、次のことが分かります。

1) お金が支払われる安全性は、債券＞株式

上の図によると、債券への支払いは優先的に計上されます。これによりお金が早めに確保されるので、債券への支払いはスムーズに行われます。一方、配当など株式への支払いは税引利益、すべての費用が計上された残りから行われます。もし利益を十分に稼げないと、企業は株式へ支払うお金の確保に苦労します。つまり、**お金が支払われる安全性は債券のほうが株式より高くなります。**

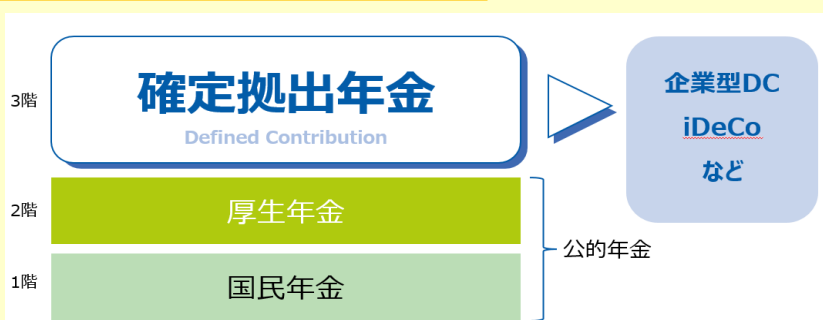
2) リスク・リターンは、債券＜株式

上の図によると、売上高が増減すれば利益も増減し、株式へ支払うお金も変動すると理解できます。また、多くの段階を経た結果として生まれる利益の正確な予想は難しく、市場での利益予想は常に変動します。利益それ自体と市場での利益予想、双方の変動を反映して株式の価格は大きく変動します。最近の例としては、AI（人工知能）ブームで恩恵をうける半導体関連企業では、株式の価格が大きく上昇しました。

一方債券は、期間や利率などの条件が発行時に決まっています。債券にお金を貸した時の条件は、企業活動の結果にかかわらず一定です。つまり、**リスク・リターンは株式のほうが債券よりも大きくなります。**

豆知識

確定拠出年金制度とは



確定拠出年金制度(DC)は、1階の国民年金、2階の厚生年金に積み重なる3階部分にあたります。DCは、企業型確定拠出年金の企業型DCと、個人型確定拠出年金のiDeCoに大別されます。

DCは、長期間自分で運用した成果を、自分の老後生活のために受け取る私的年金制度です。企業型DCの加入者(2025年3月末現在)は862万人と、これまで主流であった確定給付企業年金制度(DB)の887万人に迫る勢いで増加しています*。

そしてDCには以下のような税制メリットがあり、長期的な運用成果の最大化に役立ちます。

- ・ 企業型では、企業が毎月拠出する事業主掛金は所得とみなされないの、所得税がかかりません。
- ・ 個人型では、加入者が拠出する加入者掛金は所得控除の対象となります。
- ・ 運用している間に発生する運用益にも、税金はかかりません。
- ・ 最後に受け取る際にも、税制優遇が受けられます。

*加入者数は「確定拠出年金統計資料」、「企業年金(確定給付型)の受託概況」より抜粋

ツールを使おう！ なっとく運用サポート

「商品の種類が多すぎて、自分では運用商品を選べない💡」「商品の選び方がわからない💡」という経験をされた方は、少なくないのではないのでしょうか。
ご自分で運用商品を選択された方でも、「この運用商品や資産配分は、果たして自分にあっているのだろうか💡」と感じているのではないのでしょうか。

そんな時こそ、資産配分シミュレーションツール“なっとく運用サポート”
をご活用ください！ 5つの質問に答えるだけで、ご自分のリスク許容度
(リスクを受け入れる余裕度合)に応じた資産配分例を確認できます。
この例を参考に、ご自身の資産配分を考えてみましょう。
スマートフォンやパソコンから簡単にアクセスできます。
所要時間は人により異なりますが、1分程度あれば回答可能です。
ぜひご活用ください！

👉 アクセスはこちら



DC年金コンパス
からもアクセス
可能です！

📎 今月のお知らせ 📎

2026年4月末より郵送またはWeb(選択された場合のみ)にて、「確定拠出年金・残高のお知らせ」を順次お届けしています。

同封の「確定拠出年金に関する大切なお知らせ」とあわせて、ご自身の運用成績(2026年3月末時点)をご確認いただき、今後の運用にお役立てください。